

○司会 大変お待たせいたしました。ただ今から、東部方面区主催による、平成18年度前期横浜シティーフォーラムを開催いたします。

申し遅れましたが、私は本日の司会を担当いたします、南区区政推進課の清水と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は横浜市のマスコットキャラクターが、進行のアシスタントを務めさせていただきます。御紹介いたします。

向かって一番右、南区のマスコットキャラクターのみなっちです。

続きまして真ん中が、鶴見区のマスコットキャラクターのワックンです。

最後に、一番左が、「ヨコハマはG30」マスコットキャラクター、へら星人ミーオです。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。はい、みんなにはまた後でお手伝いをいたします。

さて、この横浜シティーフォーラムは、平成14年度から市内を4方面に分けて、各方面、春と秋の年2回、開催しております。こちら東部方面区は、鶴見、神奈川、西、中、南区の5区となっております。今回は平成18年度前期として、南区での開催となります。

本日は第1部の、中田市長の基調講演に引き続きまして、第2部では地域とスポーツ「スポーツは地域と子供を元気にできるか」をテーマに、市長とゲストの対談を予定しております。

ゲストには、元横浜大洋ホエールズ・広島東洋カープ監督、元社団法人少年軟式野球国際交流協会理事長、古葉竹識様。そして、横浜Fマリノス育成強化部部長、下條佳明様をお迎えしております。

また、対談の進行役を、元プロ野球セントラルリーグ事務局長、元スポーツ評論家の澁澤良一様をお願いしております。

対談に先立ち、東部方面5区の地域における取組事例の発表や、先ほど受付けでお配りいたしました、こちらのうちわを使いまして、舞台と会場の皆様方との簡単なやり取りなども予定しております。

対談の終盤には、会場の皆様との意見交換を予定しております。この意見交換では、受付けでお渡ししました御意見等記入用紙が資料となります。

また、小学生以下のお子様には、ベイスターズメンバーズ下敷とともに、市長・ゲストへの質問用紙をお配りしております。御意見等記入用紙、質問用紙ともに、回収は第1部終了後、第2部開演前を予定しておりますので、それまでに御記入をお願いいたします。

また、御意見の映写や掲示を希望されない方は、御意見用紙の「希望しない」の末に必ずチェックしていただくようお願いいたします。

既に市長が舞台袖に待機しております。それでは、第1部、中田宏横浜市長によります基調講演を行います。中田市長、よろしくお願いいたします。

○市長 皆さん、おはようございます。今日は横浜シティーフォーラムの東部方面ということで、午前中からこうして土曜日に皆さんお集まりいただいたことを心から感謝をいた

したいというふうに思います。スポーツということですから、今日は私も本当にスポーツ大好きで、これまでスポーツ抜きに過ごしてきたことないなあと、さっき振り返っていたところでありまして、是非今日は多くのゲスト、聞いてみたいお話のゲストの方がたくさん集まっておられますから、私の時間もきっちり守って順調に進めていきたいと思っています。

みなっちとかミーオとかワックンとか出てきましたけど、アシスタントをやるんですけど。手、引っ張られて出てきてましたけど、アシスタントできるのかどうか、今、不安になって見てましたけれども。後で堂々とアシスタントを務めてくれることを期待したいと思っています。

さて、このシティーフォーラムは、テーマは設定をしてございますから、今日はスポーツということですがけれども、そのスポーツとは別に皆さんには市政について、私から直接お伝えをする、そういう機会でもあり、また、皆さんから市政についていろんな分野、御意見がある。そのこともお伺いしていく、そういうチャンスだとも思っております。そういうチャンスだとも思っております。そういう意味では、皆さんには先ほどの記入用紙なども御利用いただいてですね、是非いろんな御意見をお聴かせいただきたいと思っています。

私も先般、改めて市長に着任しまして、これから4年間といいますか、もう3年と9か月ぐらいかもしれませんが、全力で横浜市のために働いていこうというふうに思っております。

この4年間、すなわち私が平成14年、着任させていただいて以来、横浜市において何を根本として市政運営をしてきたのかということですがけれども、それはよくよく時代を私たちが直視をして、その時代についてしっかり認識をして行政運営をしていこうということでありました。

経済状態、これがいいわけではありません。そして、何だかんだ言っても、その経済から含めて横浜市の財政、国の財政、こういったものがあり、そしてその財政から様々なサービスがこれまで提供されてきました。福祉も、様々な施設の整備も、それこそ子供たちに対するお金も。あるいは、市民の憩いの場、その整備やサービスの提供も、これも当然、財政というものがあるのはじめて成り立ってきたものでありました。

しかし、私は4年前に就任をしたときに、成長と拡大がグルグルグルグル続いていく。成長と拡大というのが当たり前で、そのことを前提とした社会、そのことは横浜市は見直しをしましょう、というふうに申し上げました。事実、横浜市の税収、更には税金だけではない、歳入全体、これは一貫して減り続けております。そういう中で、これまでやってきたサービスがあり、時代の中で新たに必要なサービスがある。そうであるならば、同じようなことを昨日から今日、今日から明日という具合に延長線でやっていくことは、これはそもそもできないことです。様々見直しをしなければいけません。

市民の皆さんにもいろんな見直しということをお願いする以上、まず市役所が率先して見直しをしなければいけない。そのことをこれまで大分やってきました。成長と拡大を前提にした仕組み、その見直しということで、私は非成長拡大の時代ということ、このこ

さい」と言っているのではなくて、その地域で物事が考えられる。そして、そこに市民の皆さんが中心にいて物が考えられていくという、そうした私たちは運営をしていかなければいけないと思っています。

ですから、横浜市役所は区の機能強化というのを図ってきたのですね。市役所。私はいつも市役所に様々な案件、判断をしなければいけない市役所にいるわけですがけれども、しかし、各区役所がもっと市民の皆さんと一緒に課題を解決していく、そういう市になっていくということで、各区役所の機能というものを高めるようにしています。

さて、三つ目ですけれども、前方圏的な都市経営、都市運営ということを行いました。これはどういうことかといいますと、今言ったような、地域の運営をしていくにあたっては、「地域の皆さん、やっってくださいね」と、こんなことを私は言ってるのではありません。それぞれの地域の課題を解決をしていく。それぞれの地域でいろんな物事を一緒にやっていくという中においては、当然ですけれども、私たち区役所を中心として、市が頑張っただけで皆さんと一緒にやるのが重要。そして市民の皆さんがいる。更には地域の中で活動してくれている町内会、自治会といった、本当に今まで一生懸命やってきてくださった皆さん、一緒にやっていかなければいけない。

更には、最近ではNPOと言われるようないろんな問題解決のために、あるいは、自分たちの自発的な取組としてやってくれている組織もある。更には地域の中に企業もある。そうした皆さんが一緒になって公共をつくっていくということをやっつけていかなければいけない。そういう意味で、こうしてそれぞれの地域の主体が力を合わせていくということをやっつけて三つ目に挙げました。

この三つを是非、横浜市がこれから先、問題を解決したり、更にはいい地域にしたりということのために、基本的な考え方として私は共有をしていきたいと思っています。

先般、横浜市会で、横浜市の長期ビジョン。20年先まで考えた長期ビジョンというのを議決をしてもらい、最終的に決定しました。市民の皆さんからも大変多くの意見をいただきました。どのぐらいいただいたかという、実に1万件以上の御意見をいただきました。

20ねと先を見通して、もちろんそこには、20年先ですから、いろんな物事が変化をしていく中で、具体的に「あれをつくり、これをやります」というのではなく、物の考え方、横浜市の理念というものを盛り込んでいるもので、実はこの長期ビジョンというのは昭和48年につくられたものが今まではありました。あまり意識をされずにその長期ビジョンがあった感もありますけれども、もう30数年たっていますから、ひとつやっぱり大きく、日本が置かれている状況、私たちの社会の現象、変わってきていますから、これも見直すということで、30数年ぶりにこの長期ビジョンを見直しました。

是非皆さんには、改めて完成した長期ビジョンを見ていただきたいと思います。区役所、市役所、更にはインターネットを使える方はホームページなどでもこれは見ることが出来ます。

この長期ビジョン、今申し上げたとおり、20年先ということを見越してつくるものです

から、大変大切です。ですから、ここにいらっしゃる皆さん全員の方に、160万の世帯の皆さんに、すべて実は私たちは資料をお届けして、そしてアンケート、はがきや御意見をいただく機会を設けました。ですから、先ほど申し上げたように、実に1万件以上も皆さんから御意見をいただきました。これは他の都市では考えられないぐらい大変に多い数字です。横浜よりも小さい市が、何かこういうふうに意見を求めるということをやったとき、例えば大阪などでも数百件しか来ませんでした。

しかし、市民の皆さんは1万件以上、御意見を今回、横浜市では寄せていただきました。本当に有り難いことだと思っています。是非、市民の皆さんとこうしたビジョンも共有しながら、その上で地域があり、その上で一つひとつの課題がある。先ほど申し上げた私は、例えばG30一つ取ってみても、皆さんと一緒に行動してくれたおかげで大きな成果になり、それは焼却工場を二つ減らすことができ、そのことは莫大な市の財政を浮かせることができ、節約することができ、更にそれを他のことに私たちは使っていくことができる。これは私たちが、行政がゴミを集めて、ただ燃やして埋めるということの方針転換をして、皆さんと一緒にゴミ処理の仕方を変えてきた結果でありますから、そういう意味では市民の皆さんと一緒にやる。地域と一緒にやる。G30もそうですよね。一人ひとりの市民でもあったけれども、それぞれの町内ごとにいろんなキャンペーンをやっていただいたり、学習会をやっていただいたり、こういうこともしました。さっき申し上げた三つのスタイルが全部この中に入ってきます。そして、公共のつくり方を私たちは考え直した結果、今、大きな成果を得ていると思います。

G30に限らず、私たちはいろんな成果をこれからも横浜市、厳しい、私たちが置かれている財政状況や社会環境の中でも実践していきたいと思っています。

さて、いただいた時間ももうなくなってきました。この後、スポーツということで皆さんと一緒に私も最後まで今日この場で御一緒したいと思っていますけれども、申し上げたとおり、私も本当にスポーツに夢中で過ごしてきました。

横浜は、野球はベイスターズだ。そしてサッカーはマリノス、また、横浜FC。プロが3チームあります。

更に皆さんの地域でもいろんなスポーツが活発に行われていると思います。スポーツ、私は後の会でも発言をするときに、その大事さということを私なりにお伝えをしたいと思いますが、恐らくですね、競技としてのスポーツというものが今、特に重要視をされていると思うんですけれども、私が子供のころ、あるいは、私よりももっと人生の先輩方が子供のころ、競技スポーツだけではなく、体を動かしたり、競走してみたり、仲間と力を合わせてやったり、ということが、ある意味では子供のころからいろんな機会にあったと思うんです。子供たちが遊ぶときは、ちょっとした空地や、あるいは、学校の庭に丸く土俵を描いて相撲をとったり、ということなどは、競技スポーツでやられたのではなくて、昔からいろんな人が自然にやってたことだと思います。

しかし、今はなかなかそういう環境というのが少なくなってきました。それは、誰のせ

いでもなく、日本の発展の中で私たち大人が認識をし、だったら、子供たちに対してどんな場をつくり、そして競技という中で、競い合うという意味ではなく、ルールの中でスポーツをやっていくということの大切さというのが今日ほど重要な時期はないと、私は思います。

そんな意味では、この後私も大変楽しみにしておりますし、皆さんから、先ほど申し上げたようにスポーツについて、あるいは、そうではない、市政その他について、いろんな御意見を伺って、私も今日、有意義な時間にさせていただきたいと思います。

どうぞ皆さん、この後最後までお付き合いをいただくことをお願いをしまして、ひとまず私から市政全体についての、短い時間でありますから、この程度しかお話しできませんけれども、お伝えをさせていただいて、この後、会を進行させていただきたいと思います。どうぞこの後よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○司会 中田市長、ありがとうございました。

ここで主催者を代表いたしまして、南区長の渡辺からごあいさつをさせていただきます。渡辺区長、よろしくお願ひします。

○渡辺 皆様、おはようございます。ただ今、御紹介をいただきました、南区長、渡辺でございます。本日は東部方面の横浜シティーフォーラムに、早朝よりたくさんの方々にお越しいただき、誠にありがとうございます。東部方面の鶴見、神奈川、西、中、南の5区を代表いたしまして、私から一言ごあいさつをさせていただきます。

本日は、第1部では、今、中田市長から基調講演をさせていただきました。

その後、第2部では、「地域とスポーツ・スポーツは地域と子供を元気にできるか」をテーマにいたしまして、各区の区民の方々から地域での取組の発表をいただきまして、その後、会場の皆様にも参加をしていただきながら、ゲストの方々との方々と市長の対談を予定しております。

本日のテーマのキーワードとなりますスポーツには、現在ドイツで行われておりますワールドカップでの、国を挙げた熱い闘いに見られますように、子供から大人まで多くの方に一体感を共有させることができるとともに、感動を与える力があります。

また、子供たちが元気にスポーツに取り組むことができる町は、すべての人にとっても安全で住みよい活気に満ちた町でもあります。

今回のシティーフォーラムを、子供たちの元気な成長とともに地域を活性化させるため、地域でのスポーツ活動におきまして、私たちは何ができ、何をすべきかを考える良い機会としていただきまして、その中から皆様が何かひとつ新たな思いをお持ち帰りいただけることを期待しております。

それでは最後になりますが、東部方面の各区長を御紹介をさせていただきます。

鶴見区の小堀区長。

神奈川区の宮崎区長。

西区の二木区長です。

中区の屋代区長です。

どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

なお、本日のシティーフォーラムの開催にあたりましては、日吉病院様、医療法人すこやか高田中央病院様、UCC上島コーヒー株式会社様から御協賛をいただきました。この場をお借りし、熱く御礼申し上げます。

また、会場の入り口に飾られている七夕飾りは、地元南区の連合町内会連絡協議会会長、横浜市立石川小学校、井戸ヶ谷小学校、井土ヶ谷小学校、太田小学校の皆さんが御協力くださり、飾られております。色とりどりの短冊には子供たちの夢が記されております。どうぞ御覧ください。

また、七夕飾りの作成にあたりまして、株式会社有隣堂ソリューションズ様より御共賛をいただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

それでは、これで第1部を終了させていただきます。これから、先ほど皆様にお願いいたしました御意見等記入用紙、質問用紙を係員が回収いたします。御意見や御質問を提出される方はお手を挙げていただき、青のハッピーを着たスタッフがお近くを通りました際にお渡しください。

なお、サインペンにつきましては終演後に回収させていただきますので、よろしく願いいたします。

また、御意見については後ほど御紹介させていただく予定ですので、御意見内容の映写や掲示を希望されない方は、御意見用紙の「希望しない」に必ずチェックしてくださいませよう願いいたします。

さて、今日は御来場様の皆様に、抽選でプレゼントがございます。「横浜シティーフォーラム」と書かれたプログラムの右肩の数字を御覧ください。これから特別賞の抽選を始めます。特別賞は、プログラム右肩の数字の下3桁で決定させていただきます。みなっち、ワックン、ミーオの隣におります職員がくじを引かせていただきます。

では、まず100の位です。どうぞ。

はい、100の位、0です。100の位は0番です。

続きまして、10の位、お願いします。はい、10の位は7です。

では最後に、1の位をお願いします。はい、1の位も7です。

皆様、当選番号は077.77番です。プログラムの右肩に記載されている6桁の数字の下3桁が77番、077の方には、特別賞といたしまして、距人对広島戦ペア観戦チケットをプレゼントいたします。おめでとうございます。

みなっち、ワックン、ミーオ、みんなどうもありがとう。

そして、その他にも、こちらのスクリーンにただ今投影されました、下2桁が04番、27番、56番の数字の皆様には、本日のゲスト、古葉竹識様のサインボール、サイン色紙、及び株式会社横浜ベイスターズ様、株式会社ベイスターズサービス様、横浜マリノス株式会

社様の御協力により、選手のサイン色紙のプレゼントがございます。プレゼントの引換えは終演後、ロビーの引換所で行います。当選番号が記載されたプログラムをお持ちの上、引換所にお立ち寄りください。

大変長らくお待たせいたしました。これから第2部、市長とゲストによる対談に移ります。

まず本日のゲストを御紹介いたします。お一人目は、元横浜大洋ホエールズ・広島東洋カープ監督で、現在、社団法人少年軟式野球国際交流協会理事長を務められております、古葉竹識様です。

お二人目は、横浜Fマリノス育成強化部部長、下條佳明様です。

続きまして、対談の進行役を御紹介いたします。元プロ野球セントラルリーグ事務局長で、現在スポーツ評論家として御活躍されている、澁澤良一様です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、先ほど基調講演をしました、中田宏横浜市長が対談に加わります。中田市長、よろしく申し上げます。

対談に先立ちまして、今、地域ではどのような活動がなされているのか、本日は東部方面5区の各地域において、様々な青少年のスポーツ活動に取り組んでおられる方々が、その活動について発表していただきます。

それでは、御紹介いたします。

一人目の方は、西区子供サッカースクールコーチとして御活躍中の佐久間健太さんです。佐久間さん、よろしく申し上げます。

○佐久間 皆さんこんにちは。西区のサッカー教室を開催させていただきます、佐久間健太という者です。よろしく申し上げます。

子供会において、スポーツを楽しむきっかけづくりとして、平成15年度から西区子供会サッカー教室を開催・指導しております。

またですね、私、横浜マリノスフットボールアカデミーのほうで4か所でのスクール指導、市内小学校の巡回指導等、サッカーの普及活動を行っております。

それでは、事例発表のほうに入りたいと思います。

こちらの写真はですね、横浜マリノスフットボールアカデミーでの三、四歳児のサッカー教室の風景ですね。で、写真見てもらって分かるように、僕の腰より小さいような子供にサッカーを教えています。当然、三、四歳児なので、サッカーは足でやるものですが、手でボールを扱うほうが多い子供たちですね。なかなか大変です。写真のほう、次お願いします。

子供がスポーツを行うとき、本当にいつも以上に子供が元気に見える。私がですね、子供会サッカー教室やマリノスのサッカー教室で、市内の小学校に巡回指導に行くと、周りの大人の方や先生方によくこのように言われることがあります。次お願いします。

私にももちろんそのように見えますが、子供が何かを楽しめる、取り組める。これは子

供に元気があるという証拠だと思います。こちらの写真でも分かるように、子供はすごい、これ、西区のサッカー教室の写真ですが、楽しそうに。ここには声はないですが、もう本当にいつも以上に楽しい声、笑い声を出してサッカーのほうを楽しんでくれています。その楽しむこと、仲間同士で取り組めるものの一つとしてスポーツがあるんだと思います。公園などで子供たちが何かスポーツをして遊んでいるとき、そこにはわいわいキャーキャーとした声や、笑い声も聞こえてくるでしょう。次お願いします。

そんな元気な子供たちが集まる公園などを含む町内には、子供たちがつくる声が町の音となって、町の元気、活気に変わるのだと思います。スポーツにはそんな、地域と子供を元気にしてくれる力があるのだと私は考えております。

こちらの写真もマリノスのフットボールアカデミー夏季合宿のほうで撮らせてもらった写真なのですが、子供たち、すごく楽しんでもらって、これ、室内練習場なのですが、その中で話してる声が聞こえなくなるぐらい、子供たちがわいわいキャーキャーといった笑い声を出してくれています。

この写真でも、僕の顔しか写ってないですけど、本当は楽しんでいるところですね、はい。

そして、その力を子供たちが物事を楽しめる力というのを引き出すために、これから子供とかかわって、自分もサッカー指導のほう、頑張っていきたいと思います。以上で発表を終わりにします。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

二人目の方は、少年野球連盟会長として、少年野球大会の運営や、沖縄の子供たちとの交流に携わってこられた、中区の三好公さんです。三好さん、よろしくお願ひします。

○三好 こんにちは。中区少年野球連盟の会長をさせていただきます三好と申します。よろしくお願ひします。

多くの子供たちと野球を通じて楽しく遊んでもらっているうちに、あっという間の 20 年間です。中区の 19 チームや、横浜市の 18 区の子供とともに、野球の素晴らしさ、面白さに魅せられ、また、多くの素晴らしい人たちと巡り会い等、これもすべて少年野球のおかげと感謝しております。

中区少年野球連盟の活動としては、春季大会、第 35 回中区少年野球大会新人戦と続き、上位チームが横浜市大会と県大会へ出場し、各チームとも活躍してくれております。

中でも最大のイベントとして、沖縄県宜野湾市の少年野球との親善交流が長年にわたって続いております。この写真は今年 5 月 4 日、横浜 Y C A C で行った宜野湾チームの歓迎会のスナップです。

翌 5 月 5 日、第 35 回中区少年野球大会の開会式に宜野湾チームも参加し、あこがれの横浜スタジアムにおいて 2 試合を行いました。

子供たちにとって素晴らしい思い出と、たくさんの友達の輪を広げてくれたこと、連盟としても安どしております。

また、開会式に花を添えてくれた、中尾台中学校吹奏楽部の皆さんに、改めてお礼申し上げます。

2007年は中区選抜チームの子供たちが宜野湾へ行く予定でおります。前回、宜野湾を訪れた際は、このような郷土色にあふれた歓迎交流会を盛大に催していただきました。来年も楽しみにしております。

また、連盟の活動の裾野を広げていくために、幼稚園から小学校3年生を対象に、お母さん3名を交じえた、母と子のふれあいトスボールの普及に努めております。

この写真は、お母さんとお子さんが一緒にプレーしている写真ですが、トスボールを行うことによって、一人でも多くの子供たちに「打つ、取る、走る」ことの楽しさを。楽しさや面白さが分かってもらえればと心掛けております。

今後も素晴らしい、感動を与えてくれる子供たち、目標に向かって努力している子供たち、そして野球を支えてくれる地域の皆様方に感謝するとともに、少年野球の発展にこれからも力を注いでいきたいと思っております。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

3人目の方は、PTAや地域の支援を受けて、中学校のぬ部活動に取り組んでいる、鶴見区の市立潮田中学校校長、横山敏夫さんです。横山さん、よろしく申し上げます。

○横山 鶴見区の潮田中学校の校長の横山と申します。よろしく願いいたします。

本校の特色はいろいろありますが、その一つに、部活動がとても盛んであるということが挙げられます。実は本校は10数年前までは、市内でも荒れた学校として有名でした。その学校を何とか立て直そうとして考えられたのが、子供たちの部活動全入制です。当時、子供たちは放課後、校外や校内でいろいろな反社会的な行動をしていましたので、余暇の善用というような意味合いで、全職員で部活動指導に当たり、子供たちの面倒を見ようというのが始まりでした。

その結果、学校は立ち直り、今では周囲からも、「子供たちが生き生きしている」とか、「あいさつがよくできる」というような評価をいただけるまでになりました。

本校には「潮田魂」という言葉がありますが、それは「やるべきときは全力を尽くす」とか、「最後まであきらめずに頑張り通す」というような意味で使われています。子供たちも本校の部活動には大変、誇りを持っており、良き伝統として先輩から後輩へと伝えられています。

成績のほうも、毎年、多くの部活動が全国大会や関東大会に出場しています。そして平成8年度と16年度には、横浜市立中学校総合体育大会で、男女総合優勝を勝ち取ることができました。これは運動系部活動各種目の順位点を合計して総合得点を競うものですが、生徒数が多く、多くの部活動がある大規模校がほとんど上位を占めている中、本校のような中規模校が優勝するという事は、手前味噌になりますが、極めてまれなことだと思っています。

また、本校の部活動がこのように活動できているのも、保護者、PTA、また、地域の

方々の御支援・御協力によるところが極めて大きいと考えています。大会や練習試合のときにはたくさんの方に応援に来ていただいたり、また、ボランティアで部活動指導を手伝ってもらっている方もいます。PTA会長がいろいろな場面で機会あるごとに、保護者や地域の方々に、本校の部活動への支援・協力を呼び掛けてくれています。

今日、中学校の部活動は、少子化、教職員の高齢化、また、学校教育の中の位置付けなど様々な課題を抱えています。子供たちに忍耐力、集中力、協調性などの生きる力を育くむためにも、その教育的な意義は極めて高いと考えています。

子供たちが楽しい学校生活を送るために、また、学校がいつまでも活力と魅力にあふれた学校であるためにも、これからも保護者や地域の御協力をいただきながら、本校部活動の振興に努めていきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

4人目の方は、地域ぐるみでスポーツレクリエーション活動に取り組んでいる、神奈川区の羽沢クラブの会長、原捷夫さんです。原さん、よろしくお祈いします。

○原 ただ今、御紹介をいただきました、神奈川区羽沢クラブ代表の原でございます。

全国的に子供たちの体力低下が問題とされております。横浜市の子供の体力の低下についても、全国平均より若干、下回っているという統計が出ております。

私たちは以前から、子供たちが気軽にスポーツに親しめる場所を提供しよう。学校施設等、中心とした、身近な施設でのスポーツ活動に取り組んできました。

今までの活動として、サッカー、ミニバスケットボール、グランドゴルフ、ミニスポーツ。その他、また文化活動として書道教室、フラワー教室、アロマテラピー等々を開催してまいりました。

地元のボランティアの方たちが指導者となって、子供たちを中心にたくさんの方が参加をしております。これはグランドゴルフの練習風景でございます。大人も子供も楽しんでいるところです。

これは低学年ミニスポーツですが、ボールを使い、ゲーム感覚で遊んでいる場でございます。

また、運動会の前にはバトンを使い、運動、リレーの練習等についても行っております。子供たち1年生から3年生までの低学年ミニスポーツでございます。

アロマテラピー、これはつい最近、癒し系と申しますか、あちらこちらで教室を開催されています。ちなみに神奈川区体育指導員の中でも昨年より取り入れて、アロマテラピーを開催しております。

これから一層、地元の皆さんに関心を持ってもらい、大人も子供も地域ぐるみでの健康づくり、体力づくり、そしてスポーツを通じた仲間づくり、地域交流を広げていこうと、現在、総合型地域スポーツクラブの準備に向けて進んでいるところでございます。これは羽沢クラブの町の写真ですが、クラブのことを地元の皆さんに多く知ってもらうために行

っています。この行事への参加をきっかけに、羽沢クラブへの参加の数が増えてきております。

また、新たな種目として水泳など希望を寄せていただいております。これも。これはクリスマスのお祭の時でございます。

さて、「スポーツは地域と子供を元気にできるか」という本日のメインテーマでございます。私は声を大にして、「もちろんできます」と言います。元気になるだけではなく、地域交流が強まれば、学校の防犯、そしてまた、地域の防犯にも役立ちます。安全で安心して暮らせる潤いのある町にもなります。特に学校防犯については、4月より羽沢小学校では午前二人、午後二人、学校の中に入りまして、子供たちが安全に勉強できるように見守っている現状でございます。これからも是非、羽沢クラブを発展させて、地域の元気づくりのためにお役に立てればと思っております。

大変、御清聴ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

5人目の方は、少年野球チーム、カラサワチャレンジャーズの顧問として、長年、地域の子供たちに指導に当たられている、南区の吉井肇さんです。吉井さん、よろしくお願います。

○吉井 ただ今、御紹介にいただきました吉井でございます。まずプロフィールということで、私が子供のころは遊びというと、家の周りの原っぱ、そして道路。その道路も昔は歩装されておらず、土でございました。そこで面子、ビー玉、ベーゴマ、隠れんぼ、鬼ごっこというように遊んでおりました。

そして、スポーツと言えば野球しかない時代でございました。子供のころより野球を続けており、今も、現在も青年部で野球をやっておりますが、今も、現在ちょっと、他で試合をやっております。

少年野球の指導者にそしてなり、それから認められ、PTA、そして町内会、青少年指導員、民生委員と、地域の方々とお付き合いをさせていただいております。

野球のほうに移ります。昨年、少年野球の成績であります。南区で優勝をし、横浜市大会で優勝、いざ県大会というときにですね、小学校の運動会と日程が重なり、石川小学校のコミズ校長先生に相談いたしましたところ、「父母と子供さんの判断にお任せいたします」という、理解あるお答えをいただき、県大会に出場し、取って返して運動会に参加したというエピソードがございます。

県大会で優秀な成績を納め、関東大会に出場し、優勝は逃しながらも、準優勝という成績を納めました。子供たちにとっては大変良い経験ができたものと思います。学校教育以外のところでヒーローになれる人もいます。

ちなみに、エースとして大活躍いたしましたのは、私のめいでございます。ちょっと自慢で申し訳ありがとうございます。私の弟が監督をしておりまして、その弟が指導した、本当に、女の子で、本当にエースとして大変、頑張ってくれました。

地域では野球の他にも夏祭、キャンプ、餅つき大会、横浜ベイスターズさんによる野球教室、このようにスポーツを通じ、子供たちは地域で育てていただいております。

また、先ほど市長様がおっしゃった市政。何か少し市政のこともというようなお話でございましたので、今、急きょ思い立ちまして、南区ではグラウンドとか広い場所が大変少のうございます。是非、広い場所がありましたら、原っぱで残していただきたいなど、そのような希望を持っております。

また、横浜市は20年以上前から、学校施設を開放する事業を行っております。少年少女のミニバスケットボール、野球、ソフトボール、バレーボール、サッカーと、無料で利用させていただいております。

子供さんたちからお預かりする会費は、ほとんど大会の費用でなくなります。指導者のほとんどの方が手弁当で子供さんたちを指導しております。もしこの利用制度が無料でなくなれば、子供さんたちに大きな負担になるのではないかなという懸念もございます。

最後になりましたが、私はスポーツを通じ、自分自身が学んだこと、そして知り合った人たちとますます交流を続けながら、今後も歩んでいきたいと思っております。そうした人の和イコール協力し合うことの大切さを、これからも子供さんたちに伝えていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

事例を発表してくださった皆様、どうもありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

それでは、市長とゲストの対談に移りたいと思っております。ここから対談の進行役を澁澤さんをお願いしたいと思います。澁澤さん、よろしく申し上げます。

○澁澤 ただ今、御紹介をいただきました澁澤でございます。横浜シティーフォーラムの第2部は、「スポーツは地域と子供を元気にできるか」というテーマで、御出席をいただいている市長さんを交じえ、こちらに御出席の先生方と熱き語らいをしていただくという趣向でございます。私は進行役という大役をおおせつかっております。

さて、私は父親が県庁の役人をしておりました関係で、父親の転勤に伴い、出生地の山梨県を皮切りに、神奈川県、宮城県と渡り歩き、小学校を4度転校して、大学卒業を仙台で迎えました。

既にお気づきのように、私は次第に東北弁になじみ、カ行とサ行の発音がうまくできない少年になってしまいました。おしゃべりが苦手でございます。自分の名前も、ゆっくり「しぶさわ」と言えば良いのですが、急いでうっかりすると「すんぶさわ」となってしまいます。

そんなわけで、多々お聞き苦しいところがあるかと存じますが、どうか御容赦願います。

早速でございますが、フォーラムの最初の扉を古葉さん、下條さんに開いていただきました

いと思います。

古葉さんはプロ野球の偉大なOBとして、今なお技術指導、講演などで御活躍ですが、一方で少年野球の御指導に大変熱心で、先ほどの市長さんのお話にある協働。協働の考えを一早く実践なされて、少年野球を通じて世界の隅々にまで交流を推進しておられます。

また、下條さんは今、咲き誇る日本サッカー界の重鎮、生き字引のような方であります。現在、横浜マリノスで、チーフプロモーションオフィサーとして、サッカーの育成・普及に努めておられます。

では、最初に古葉さん、よろしく申し上げます。

○古葉 おはようございます。ただ今御紹介いただきました古葉です。

私は小学校3年生から野球を始めました。その大好きな野球少年が、プロ野球に入ることができました。プロ野球に31年間いました。現役を14年、コーチを3年、そして監督も14年間やらせてもらったんですけども、14年のうちの3年、横浜で本当にお世話になりました。

横浜へ来ますときに、「最低5年はやってほしい」ということで呼んでいただいたんですけども、3年間、一つもいい成績残せませんでした。すみませんでした。

しかし、その後日本一になりましたから、少しは貢献できたのかなというふうに思いますけども、そういうプロ野球生活をしてきました。今びっくりしました。何か見たようなユニフォームです。私はカープの生活が24年です。そのうち11年間、カープで監督をしましたけども、11年の間にリーグ優勝4回、日本一に3回なることができました。

しかし、そういうことよりも、今は子供たちのこと、もう一生懸命です。世界の子供たちの交流をしています。子供たちから大人まで、一生懸命野球を楽しもう。長野で、6月の第1週の土曜、日曜日ですけども、200チーム、4,000人から4,500の方がこられます。グラウンド5か所借りて、そこで皆さん方が野球を楽しまれるわけですけども、お父さん方の甲子園、「お父さんの甲子園」ということで毎年、もうこれも18年になります。

私たち、世界の子供たちとの交流してますのは、今年で24年目です。7月の21日に大会を始めますけども、小学校が24年です。中学校は3年目になります。浦安のグラウンドを借りて世界大会をします。一番多いときには24か国の子供たちが来たんですけども、今はそういうお金を出してくれる企業がありませんよね。

皆さん本当にボランティアで活動されてるんですけども、私たちのその世界大会のときも皆さんボランティアで協力していただきます。そして、来た国はみんなホームステイです。大体、14か国。そうですね。14か国の子供たちが来て、16チーム。日本から2チームから3チーム出るものですから、その世界大会を毎年、江戸川のグラウンドを借りて、小学校は世界大会をやってます。

そういう交流をしながらいつも思いますのは、本当に野球大好きな子供たちのために、自分に何ができるのんだろう。今、年間20回は野球教室もしていると思います。まだ投げられますよ。何か試合のときちょっと呼んでください。軟式だったら平気で5イニングぐ

らい投げられると思います。この前、長野では3イニング、3イニング、土曜日に6イニング投げました。日曜日も3イニング、3イニング、6。3イニングしか投げちゃいけないんです。ですから、ひと試合で3イニングしか投げませんが、平気でそのぐらいのことは投げることができますので、そういう交流をしながら今、世界の子供たちとしていくわけですが、いつもお父さん、お母さんに感謝していただくのは、子供がアメリカ、メキシコ、ブラジル、ペルー、アルゼンチンと、いろいろなところに行きます。オーストラリアもそうですけども、フィリピン、シンガポールもそうです。行って帰ってきて、たった1週間か10日の遠征で、こんなに子供たちが変わるものか。本当に喜んでいただきます。それが私たちの喜びです。

これからもですね、そういう活動をどんどんやっていきたい。どうぞ御協力のほどよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございます。

○澁澤 古葉さん、どうもありがとうございました。

引き続きましてですね、中区の事例発表をなさった三好さんへお伺いします。先ほどのお話で、横浜と沖縄の子供たちとの交流を5年も続けられているとのことですが、古葉さんのお話をお聴きした感想を一言お願いいたします。

○三好 私どもも沖縄との交流を5年間続けておるんですけども、沖縄の人たちのもてなしというものがすごい素晴らしいものであるんですけども、古葉さんが大洋ホエールズ時代に沖縄のほうでキャンプを張られたという話を聞いております。やはり沖縄の人たちの温かさというのをすごく感じてるんですけども、世界のほうで何か国も集まった形の子供たち、多分、楽しいのではないかなと思いますけども、この日本からは二、三チームしか出れないということなんですけども、出場資格といいますか、出場条件みたいなのが簡単に分かるようでしたらお教え願いたいと思います。

○古葉 宜野湾市との交流、すごく、5年やられているということです。私は宜野湾に、そうですね。カープの監督を辞めて、そして夏ごろ宜野湾に行きました。その明るる年ですね。そうしたら、宜野湾に素晴らしい球場ができてたんです。もし監督の要請があったら、この宜野湾でキャンプをやりたいなというふうに思いました。私は沖縄市に、カープの監督の時代に沖縄市にキャンプを持って行きました。ですから、沖縄の良さ、沖縄の方たちの温かさというのを、何か最初見るとですね、非常にとっつきにくいところがあるんですけども、素晴らしいんですね。そういうのをよく知っておりましたので、是非、沖縄でしたいなと思っておりましたら、横浜から「お前、こないか」というんで呼んでいただきました。

ですから、その条件の一つとして「宜野湾でキャンプしましょう」と言いましたら、すぐオッケーを出してもらいました。それは私がもう一番、沖縄の方たちのことを知ってるつもりですから、そういう話をしましたら、「それはいいじゃないか」ということでしていただいたんですけど。まあ、そういう面では本当にいいところで交流をしていただいているなというふうに思ってます。

それと、私、世界大会をしてるんですけども、各地区での予選をして出てくれております。今、沖縄からも、沖縄市から1チーム、必ず予選に来ます。そして関東地区で優勝して。関西地区ですね。それと北海道を含めた東北地区です。そこで優勝したチームが前の日に東京に集まってきます。そこで最終的な決勝に残ったチームと準優勝チームですね。その二つが世界大会に出れます。

そして、江戸川区はもう毎年出るようになってるわけですけども。ですから、その3チームが世界大会に出るんです。

ただ、難しいのはですね、私たちボールを、少しはずまないボールでやっています。軟式野球連盟というのは非常にうるさいところでもありますので、そういう面ではどうかというふうに思うんですけども。これは世界の要望で、実は私がボールメーカーにお願いしてですね、日本以外は軟式ボールないんです。硬式ボールなんです。

そうしたら、指導者の方たちもみんな言うんです。「もっとはずまない。この軟式ボールってというのは素晴らしい。はずまないボールを作ってくれ」と言われました。このボールを2年がかりで、メーカーの方たちと話をしてですね、作ってもらいました。それで今、世界大会をやってるわけですけども。

是非ですね、7月の21日、開会式をします。江戸川のグラウンドです。見に来てください。

○三好 ありがとうございます。

○古葉 はい、お願いします。

○澁澤 三好さん、よろしいでしょうか。

○三好 はい、ありがとうございました。

○澁澤 古葉さん、ありがとうございました。

それでは下條さん、お願いいたします。

○下條 皆さん、こんにちは。横浜マリノスの下條と申します。よろしくお願ひいたします。

先ほど西区の佐久間君、我々のスタッフでもあるんですけど、少し説明がありました。それにプラスアルファで簡単に我々の活動を紹介させていただきます。

360万都市横浜市で、我々は今、会員2,500人を集めてですね、普及活動、育成強化活動をしております。下は3歳児から、上は高校生。「アンダー18」とサッカーでは言いますが、それプラストップチームということです。マリノスはユニフォーム着て全国大会に、まあ、トップチームも入れますと、ちょうど10チームが活動しております。普及活動の延長線で目指すものは、やはりマリノスのトッププロ、あるいは、他のJリーグのプロ選手。

で、今ワールドカップやっておりますけれども、その延長線に日本代表選手を育成できればいいと思っております。

皆さんのプレゼンを聴きながらですね、昔のことを思い出しました。実は当時、日産サ

サッカースクールということで、21年前になります。当時、日産の監督をやっておりましたカモさんの発想でですね、「絶対、プロチームができる」と。「プロリーグができる。そういうふうになったら、地元の子は地元クラブが育てないと駄目だ」ということで、私、現役でサッカー選手を上がりまして、日産自動車の、大した仕事をやらずにですね、そのまま現場のコーチに抜擢されまして、こういうサッカー人生をスタートしまして。

考えてみればですね、当時のキャッチコピー、我々の帽子のコピーがですね、「サッカー大好き少年集まれ」と、そのまんまなんですけども、そういったチラシをですね、町中に配りまして、当初、250人ぐらい来たらいいんじゃないのかということ考えていたんですが、アニメで「キャプテン翼」というのが当時やってまして、その影響もありまして、実は500人来てしまったんですね。来てくれるものをキャンセルする必要はないものですから、OBを中心に働いてる、日産自動車で働いてるサッカー部OBを中心にですね、急ぎょ臨時コーチをつくりまして、活動をスタートしました。

当時は、サッカーというものはいろいろ登録制度が難しいんですけども、そういった意味でも、我々よりもはるか昔から少年団で活動している組織があるものですから、最初は登録せずにですね、地域少年団と摩擦を起こさずにやるということでやっておりました。今思えば、今こそサッカーはライセンス制度っていうのが確立してるんですけども、当時はまだそうじゃない時代だったです。自分たちの経験を中心にですね、毎日毎日メニューをして、子供たちが笑顔で楽しんでくれる、そういうメニューをつくるのが本当に楽しかったです。

今でも私たちはそういう経験を生かしながらやってますけども、今はサッカーの場合はちゃんと指導案がありまして、日本協会中心に立派なものが出来上がっております。

実は私、長野県出身なんですけれども、最初は野球少年だったんです。でも、当時、野球が。まあ、当時、人工衛星と言ってましたけども、ボール握らせてくれずにですね、グラウンドの周りを走るばかりだったんですね。その中でサッカーを楽しむようにやってる集団があつて、まあ、私の担任の先生がサッカーの監督ということもあつてサッカーをやるようになったんですけれども、やり始めたら楽しくてですね、そのまんま今に至るんですけれども。プロリーグがないので、当時は日本リーグの選手を目指してやりました。で、選手をやっているときも、やがてやはり指導者になって、子供たちを育成していきたいなという意味では、今考えればですね、夢が実現できたのかなという気がします。まあ、そんな大そうな思いを持ちながらやってたわけではないんですけども、今日はサッカー少年団の皆さんはいないんですけども、野球の少年の皆さんもプロ選手を目指してですね、夢がかなうように、夢が目標になるように頑張ってると思います。

それとですね、最後になりますけれども、横浜には熱闘クラブというものがあります。私、実は知る人ぞ知る昔、今はなきフリーゲルスのコーチもやってたことがありまして、今は横浜FCさんがそれを受け継いでおりますけれども、当時は横浜ダービーというものがありました。今はFCさん、J2で上位にあります。ですから、私もそういう経験があ

りますので、是非ですね、J1へ昇格していただいて、また横浜ダービー復活という部分
が実現できれば一番いいかと思ってます。今日はよろしく願いいたします。

○澁澤 ありがとうございます。ちょっと時間がかかってまいりましたので、ここの辺
でですね、市長さん、スポーツとのかかわり合いは少年時代を振り返ってどうだったので
しょうか。

○市長 私はもうスポーツしかしてなかったですね、本当に。それ以外何というのは、子
供の本分のほうは、今、子供が目の前にいますから、あまり言いにくいんですけど。スポ
ーツしかしなかったですね。野球でした。小学校の2年のときに、1年のときですかね。
もう野球チームに、地域の野球チーム。リトルリーグだったんですけどね。入って、その
後中学までずっと野球ひと筋でやって、高校からは武道をやりたくなくて、空手道部
に入って、部活ですね。で、中学も部活動でしたけどね。とにかくスポーツばかりやっ
てたという感じですよ。

で、それはそういう意味ではチームに、あるいは、部活でというのがありましたけど、
ただそれだけではなくて、私が子供のころの横浜なんていうのはまだまだ、だれの土地だ
か分からない土地がいっぱいありましたから、そこに勝手に入っちゃキャッチボールをや
り、勝手に試合を始めてましたよね。で、そういうのがもう毎日でしたから、確かにチー
ムとしての練習は土曜日であったり、日曜日であったりするんですけど、放課後もう毎日、
もう原っぱ、あるいは、学校のグラウンドで野球やってると感じの子供ですね。

○澁澤 典型的なスポーツ少年ですね。

○市長 ああ。

○澁澤 それでどうでしょう。スポーツから何か感じたもの、学び取ったものというよう
なものは何かございましたか。

○市長 僕はもうこれはやはり、今日は特にスポーツというのがテーマですから、なおさ
らはばからずに言えるんですけども、本当にスポーツをやるというのは人間の成長過程
そのものにとって大変に重要だと思っています。

ですから、先ほど私の与えられた時間の中で多少言ったんですけども、かつては私の
子供のころ、また、私よりももっと先輩のころはなおさら、やっぱり自然にスポーツをし
てたような状態だったと思うんですね。さっきも言ったように、もう相撲なんて、相撲部
じゃなくたってだれだって男の子、女の子だってひょっとしたら、というぐらい、もう勝
手にやりましたよね。

で、それから、子供たちは子供たちのルールの中で、スポーツではないけれども、遊び
がありましたよね。

で、そういうのがなくなってきてしまっている状態の中では、やっぱりルールの中で体
と体をぶつけ合う。で、お互い何をルールとして超えちゃいけないのか。また、ルール
の枠内であろうがやっていいこと、やっちゃいけないことを知る。ある意味では肉体的な限
界も知る。どこまでやったら自分の肉体、つらいのか。また、指導者がいて、ある意味で

自分ではつらいから挑戦しないところを乗り越えさせてくれるわけですね。そういうことを知るからはじめてですね、私は頭の理屈ではなくてですね、例えば人に対してどういうことをしていいのか、しちゃいけないのかということが分かるし、そのことの延長線上には昨今、いろんな事件があるけれども、命とは何なのかということも含めてですね、つながっていくというふうに私は思っているの、そもそもそういうものを抜きにして年相応になったときに、「命は大事だ」とか、「人は殴ってはいけない」とかいう教育で何とかなるとは、そもそも私は思っていない、というのはもう個人的な意見としてはっきり思ってますね。

○澁澤 スポーツはごく自然に、スポーツマンを育てると、こういうことになるでしょうかね。市長さん、ありがとうございました。

さて、先日、横浜市スポーツ振興審議会策定のスポーツ振興基本計画を拝見いたしました。文部省策定の基本計画より柔軟でキメ細かく、地域性にもじみ出ている素晴らしい策定書でした。

その中で意表を突かれる思いだったのが、目標3の「小中学生の身体力テストで、全種目全国平均を上回ります」という目標ですね。それから、「身体力テストの平均値は全国的に全国平均を下回っている」というテストの結果報告でした。国際都市として客光を浴び、活力に満ちみちた横浜市の子供の体力。子供の体力が全国平均を下回っているというのは驚きでした。これ、飽食の関係なんでしょうか。

○市長 何かやっぱり都市化が進んでるんでしょうね。今申し上げたように、多分、地方の場合はまだまだ体使うという場面が多分多いんだろうと。まあ、私はそう思いますね。

○澁澤 分かりました。

南区の吉井さんは長年にわたって、野球を通して子供たちに接してきたとのことですが、吉井さんの目には子供たちの体力はどう映っているのでしょうか。

○吉井 先ほどから市長さんもおっしゃっているとおり、我々子供のころは原っぱ。まあ、家の周りでいろんな遊びをしました。そういう関係できっと体力があったのかなと。

最近の子供さん、まあ、そう言うは大変失礼ですが、なかなか運動する。クラブに入ったりチームに入ったりするとできるんですけど、個人的に自分で運動するということがなかなか。学校だけはできますけど、家に帰ってくると少ないのかなと。そういう点で、少し体力が落ちてきちゃってるのかなと。

おかげさまでサッカーのクラブさんや少年野球さんとか、武道でもやってる方たちは多分、ある程度体力が保ててるのかなと思います。そういう点で、もっともっと多くの皆さんに、子供さんたちにそういうものにかかわっていただいて体力づくりをして、いい白球をたくさんつくっていただきたいと思います。

○澁澤 どうもありがとうございました。スポーツはグラウンドの上だけではない。その帰り道でもいいし、家の近所でもいいし、やろうと思ったら何でもできると、まあ、こういうことでしょう。

○吉井 はい、そうですね。

○澁澤 ありがとうございます。

横浜市の子供たちの体力は全国平均を下回るという結果について、打開の方策は一体あるのでしょうか。プロ野球の目から見て古葉さんから、最も運動量の多い、つまり、体力を必要とするサッカーの目から見て下條さん。上回る策はないのでしょうか。

○古葉 市長さんが、もっとやっぱりそういう施設をつくろうということも言っていたいてました。これがもう一番だというふうに思いますよね。大都市に行けば行くだけ、子供たちが本当に自由に遊べるところが少なくなっている。ないということが状況じゃないかなと。

私たちもいろいろなところに、先ほども言いましたように、野球教室、大体、20回ぐらいやっています。いろいろなところに呼ばれていきます。そうしますと、言われますのは、特に大都会の場合には、グラウンドがない。そのグラウンドを確保するのに大変なんだということをよく聞かされます。「それがもう一番、悩みのタネだよ」ということを言われるんですね。

ですから、そういうことにもっと、僕らも思うんですけど、学校、校庭というんですかね。そこを開放できないものかなということをよく感じるがあります。ですから、そういうことができたらもう少し、スポーツだけじゃなく、グラウンドの中をですね、自分の好きなことを選びながら遊んだりすることもできるんじゃないかなというふうに思うことがあります。

本当に言われましたように、私たちの少年時代というのは、何かもうそこがあれば、野球だけじゃないですね。砂場で「おい、相撲取ろう」ということで相撲をやってみたりですね、力を、体の本当に力をつけるというんですか。そういうことをよくしたと思うんですけども、今はそういう場がありません。是非、市長さん、お願いします。

○澁澤 古葉さん、ありがとうございます。下條さん、お願いします。

○下條 そうですね。意外なデータだなという感じがします。サッカーは御存じのように、体が大きい小さい関係なくですね、いろんな人間ができるんですけども、ただ、我々のところではですね、どちらかと言ったら「スキル」という言葉を使いますけれども、技術系の選手がマリノス多いんですね。ですから、必然的にちょっと小さな子が多い部分があるんですが。やがて高校生年代になるときは、まあ、プロチームができるようになってからですね、キーパーとか大きい体格の子を県外から取ってくるなんていうケースも最近、出てきています。

ただ、指導していてちょっと感ずるのはですね、本当に年代ごとに的確な指導をしているのかということがちょっと気になりますね。ですから、大きく、指導者の問題もあるのかなと思います。サッカー選手は、我々のときは、今、古葉さんの話にもありましたけれども、いろんなスポーツをやっていました。身のこなし、いろんなことをやりました。

ですけど、今はサッカーをやり始めるとサッカーだけなんです。ですから、サッカー

の専門性は高いんだけど、野球をやらすとめっちゃくちゃ下手です。バスケットボールやらすと下手です。

僕は、バスケットもバレーもサッカーもやらせていただいたので、それなりにはできましたけれども、そういったものがですね、子供のそういう成長に大きく影響してるんじゃないかと思っています。ですから、横浜には野山、ありますけど、そこにいつも行くわけにもいきませんが、やはり指導者の力ですね、いろんな部分のところを考えていったらいいんじゃないかとは思っております。

○澁澤 ありがとうございます。

それでは、事例発表の中で一番若い佐久間さん、ねらい、ピンポイントにしぼって、最近の子供たちのスポーツに取り組む姿勢というか、気風、どんなものでしょうか。

○佐久間 スポーツに対する取り組み方というところで、はい。えーとですね、自分は先ほど下條さんも言われたとおり、サッカーを専門としてやりたいという子供の指導をやってるんですが、やっぱり専門性というのがすごい強いですよ。

あと、スポーツをやってない子供に対して思うのは、多分、いろんなことがありすぎるのかなと思います。例えば今こうやってお話しされてても、野球の指導をされてる方、僕のようにサッカーの指導をしている方。あとそれぞれスポーツ、いろんなもの、他の習い事も、いろいろな形で習い事というものとして存在するんですね。で、その中で何か一つを選ばなきゃいけないとかっていうのは、子供からすればすごい大変なんじゃないかなと思いますね。

で、僕も子供のときにはいろんなスポーツをすごいやりました。で、たまたま本当にサッカーが楽しかったんで、今もサッカー続けてるんですが、そういうふうにして、何か一つを選ぶというスポーツというのはすごい難しいと思うんで、小学生、子供としては是非いろんなことをやっていただいて、運動神経じゃないですけど、いろんなスポーツを楽しめるというところ、楽しさというのを感じてくれればいいのかっていうふうに思います。

○澁澤 ありがとうございます。

さて、市長さん、三度お伺いいたします。

富士山を眺望できるすそ野の一郭にある横浜市スポーツ行政はいかにあるべきか。これまでの皆さんのお話など聴いた感想、そしてまた御意見がございましたらお聴かせください。

○市長 はい、やはり子供たちにとって、これは実はスポーツの話をして、今日は子供という観点のほうが中心的な話ですけど、実は大人にとってもスポーツはある意味で、これからより重要になってくるというふうに思いますよね。そういう意味では、横浜のような都市において、先ほどの平均体力みたいなものがむしろ全国より下回っているというような状態があるというのは、やはりどんどんどん都市化が進んできて、そしてスポーツ以外にも今の習い事という範ちゅうに、スポーツ自体が入ってきているという話にあったように、「スポーツもあれば、スポーツじゃないのもあるよね」というような、そういう、ま

あ、土壌になってしまっている。都市化が進んで場所もない、というところ辺りが全部復合して生まれてきてる結果なんだろうと。その平均の問題について言うならば、そういうふうに思うんですね。

すなわち、先ほどから下條さんも今おっしゃったような話になるんですけど、子供のころからいろんなのを勝手にやっていたりとか、やる機会があったりとかっていうのはこれ、スポーツを特別やってる人じゃなくてもあったわけですよ、かつては。

今は、「私はスポーツ行ってないから音楽」とか、例えばですね。音楽はすごくいいことだと思うんですよ。ただ、スポーツはスポーツで体を動かす。だから、「スポーツ」って言っちゃうと競技的な意味に今、聞こえてしまうんですけども、そうではなくて、もっともっと広い意味で体を動かすということがあって、その他に音楽やったり、何やったりというのがあったように思うんですけど、それがもはや「どちらを取る」みたいな話も含めてですね、なかなかスポーツというものについての環境がやりにくい状態にあると思います。

しかし、古葉さんがおっしゃっていただいたとおりですね、施設もなるべくもうこれ、できる限り増やしていきたいということは心掛けて、まとまった土地が手に入れば、そこは今、横浜で抱えてる問題としては緑がどんどん減ってますから、なるべく緑を増やすということ。そして併せてスポーツのグラウンド、それを整備するという。このことを二つはけっこう両立しやすいものですからね。公園、緑と、それからスポーツというのは、これは両立しやすいものですから。

そういう意味では、まとまった土地が手に入ったりした場合には、なるべくそれに活用して切り替えていく。更には、今、予定地として物が建っていないというようなスペース、これもなるべくスポーツに使ってもらおうということも、これは全市的にやってはいるところですよ。

更に工夫することは何かということになれば、古葉さんがおっしゃった学校のグラウンドなんかも開放をどんどんしてもらいたいという話で、これもけっこう、横浜の場合は今もう学校のグラウンド開放というのは相当熱心にやってはいるんですけども、もっと工夫できないかということは確かにあるかもしれません。放課後はもちろんのこと、土曜、日曜というところの学校のグラウンドなども開放してますけども。

例えば、グラウンドと言えば、企業のグラウンドなどもあったりします。そういうところも含めてですね、今ある中でどうやってやり繰りをもっとできないだろうかということなどもですね、これはより考えていく必要があると思います。

また、みなとみらいに今度、マリノスの大きいグラウンドがそれこそできるわけですけども、これはマリノスのグラウンドの横に、横浜市も一緒になってつくる、更に同じように広いグラウンドができます。みなとみらいという場所はぜいたくなように思えますけどもね、「なんでみなとみらいでサッカーやるの」って。それは何か、「あんな一等地でやることないじゃないの」って思う方もいらっしゃるかもしれませんが、逆にああいうとこ

ろだから、先ほど申し上げたように、緑としてのスポーツグラウンドがあることが一つメリットがある。

それからもう一つはですね、実はああいう場所だから、夜遅くまでやったりできるというのがあるんですね。地域の中でのグラウンドでって、照明つけてワーワーワーやったら、全くこれ、いろいろ考えられるでしょう、皆さん。なんかせちがらいですよ。

ところが、みなとみらいというような場所であったり、今、横浜駅のデパートの上なんかでもですね、フットサルのコートがあったりするんですけども、こういうところは逆に、まあ、真夜中とは言いませんけれども、夜遅くまで使ったりすることができるということもあるので、そういったやり繰りをどんどんする。

一方でももちろん、施設を増やしたり、やれる場所を確保するということはやりますけど、そういう努力を引き続きやっていきたいですね。

○澁澤 ありがとうございます。大変にうれしい、有り難いお話をいただきました。よろしく願いいたします。

そこで最後に、鶴見区の横山さんをお願いします。横山さんの御体験を通してのスポーツ文化のあり様について御意見をいただきたいと思います。

○横山 はい、本校、部活動全入制ということは先ほど事例発表でお話ししましたけれども、部活動に全員入ってる学校というのは横浜市内でもほんの数校しかないと思いますけれども、これは学校の方だけではできないものではなくて、地域、保護者の方の理解の上で成り立っているというふうに思っています。先ほどから子供の体力の低下ということが出ていますけれども、それ以外にも、今の子供たちについて忍耐力がないとか、あるいは、人間関係づくりが下手であるとか、そういうふうなことを言われてるんですけども、そういう意味でもスポーツとか部活動の果たす役割というのはとっても大きいかなというふうに思っています。

私も子供たちには日ごろから、中学生という非常に精神的にも肉体的にも成長できるときに、自分の趣味や興味を伸ばすこと。それと同時に、学年とかクラスを超えて友達とかかわり、あるいは、先生とかかわり、そういうものを通して、人間関係を豊かにしていくことの大切さ、そういうものを子供たちに日ごろから話しているつもりです。

そういう意味で、本校でも保護者の方には入学前からそういう話をしまして、本校への部活動全入制というふうな意味のことで理解をいただいているところです。以上です。

○澁澤 横山先生、ありがとうございます。時間が押してまいります。

さて、今度は、会場の皆さんが態度でスポーツに物申す番です。よろしいですか。

第1問、今、何かスポーツをしている方は、うちを高く上げてください。はい、どはあ、大変うれしいうちわの数です。ありがとうございます。

市長さん、これだけたくさんの方がスポーツに親しんでおります。

○市長 はい、私ももちろんやっていますけどね。

○澁澤 ありがとうございます。

それでは続いて第2問、ファイナルアンサー。これから何かスポーツをしてみたいと思っ
ていらっしゃる方は、うちわを高く上げてください。

あれっ、少ないですね。つまり、やってる人のほうがもうはるかに多いというわけですね、この結果は。ちょっと寂しいですけども、もう少し、今までの市長さんのお話もありましたように、できるだけスポーツに親しむ。そして自分の身体を強化していくということが大切であろうかと思えます。

たくさんの方がスポーツをし好し、スポーツを理解していることが分かりました。引き続き、フォーラムの扉を開きます。最後は原さんをお願いいたします。

○原 はい、原でございます。

ボランティア。羽沢クラブのボランティアのことなんですが、実際に当クラブは種目が
多いので、その種目によってボランティアの方が集まるわけですね。

特に体育指導に、青少年指導に、社会福祉協議会の役員さん、それから子供会育成者。
それからまた、各ボランティアの方がたくさん集まるわけです。

特にバスケットについて、それからソフトもやっております。

サッカーについても、これはライセンスがなければちょっとうそを教えなきゃいけません。もちろん、ミニバス、これについてもライセンスを持っています。それから、サッカーについてもライセンス。それからまた、文化についても、その資格を持っている人をお願いをして、ボランティア活動をやっております。以上です。

○澁澤 ありがとうございます。

さて、また市長さんにちょっとお伺いします。

これまでゲストの古葉さん、下條さん、そして各区を代表して事例発表をしてくださった5人の方々のスポーツにかかる期待、意図、そのための仕組みなどについていろいろ伺ってまいりましたが、市長さんの御感想をまとめてお願いいたします。

○市長 地域の中で先ほど事例発表していただいた皆様は、き既に本当にスポーツの振興ということについては取り組んでいただいているので、まずそれ、感謝を本当に申し上げたいと思えます。

で、一方で恐らく、そうした地域の皆さんにとっても多分、私と同じようにお考えになるんじゃないかなと思ったりして勝手に申し上げますと、例えば今日いらっしゃっていただいている古葉さんや下條さんみたいな方がいてくださると、大変心強いですよね。

例えば古葉さん。それは体はお忙しいでしょうし、そんな幾つもできないでしょうけれども。だから、古葉さんみたいな方が他に逆にいる。たくさんいらっしゃるでしょう、ということにもなるんですけども、古葉さんが例えば来てくれるということになったら、そら、子供たち、目を輝かせますよね、また。地域のいつもの指導者だけではなく、もうプロ野球で活躍してきた人が来てくれるということになれば、それだけでも子供たちはまたスポーツに対する入り口になるし、より熱心に前向きになっていく、そういうきっかけになると思うんですよ。

ですから、私は今日、これから先どれだけ実現化できるかどうか、まだ自分の頭では分かりませんが、例えば古葉さんは野球ですし、下條さんはサッカーですし、他の競技だってあるでしょうし、そういう人たちが横浜の中でいろんな場面で子供たちにスポーツの楽しさを話してくれたり、また、子供たちからすればやっぱりそれこそ古葉さんが「まだ投げられますよ」とさっきおっしゃってましたけれども、もしもプロ同士のキャッチボールを目の前で10球でも見たら「わっ、すごいなあ」って絶対思うんですよ、それは。

そういうことっていうのはすごくスポーツに対する関心を高めていくという意味では非常に重要なことで、古葉さんにせよ、下條さんにせよ、もう既に地域の中でやっていただいている、そういう方お二人には感謝しつつですね、それぞれのOBの方であるとかですね、そういう方もよりスポーツをやっていく上で御協力をいただきながら、また、逆に言えば、将来的にはそういう方々が地域の中で、そういうスポーツを指導したり、何かやっていくことが、またそれぞれの競技の受け皿になるようなね、そんな日本社会ができれば、いい循環が私はつくれるような気がしました。まあ、もちろん言うは易しで、それをどういうふう to 実現していくのかということについては、まだまだ難しさを伴うと思いますけれども、しかし、是非ですね、「協働」という言葉が先ほどからもありましたけれども、競技を第一線でやってこられた方がいらっしゃる。

一方で地域の中で既にアマチュアから、もう子供たちと接するようなそうしたことを自分自身でやってくださってる、「手弁当で」とおっしゃった、そういうやり方をしてくださってる方がいらっしゃる。そこに大人たちが理解をし、地域の中でスポーツを育んで、このつながりというものをね、もっと多くつくっていくということが必要なんだろうというふうに思います。

というのは、最後にしますけど、部活動だって今、限界が出てきてるわけですね。潮田中学のような事例というのは本当に素晴らしい事例でありつつ、一方では部活動をやっていくときに、チームが編成できないなどという実態も学校の中で既に発生をしてくださっているわけですね。そういう意味では、学校単位のスポーツということもある意味では限界があるのかもしれないし、地域の中でもっとスポーツができるようにというふうに考えていくのがこれから必要ですから、横浜市としても積極的に取り組んでいきたいというふうに思います。

それでは再びですね、会場の皆さんに登場していただきます。最初にお配りしました質問書が届いております。この質問、古葉さんと下條さんと市長さんへ、1回ずつの質問がございますので、質問者を御紹介したいと思います。

最初に古葉さんに聞いてみたいとおっしゃっている、石川小学校6年生の田村ショウ君、いらっしゃいますか。はい。立ち上がってください。恥ずかしがらないで。勇気を出して。いいですか。

それで、古葉さんへの質問は、「小学生のころのあこがれの選手はだれですか」という質問でございます。

○古葉 私は。僕が言ったほうがいいよね。

○田村 小学生のころのあこがれの選手はだれでしたか。

○古葉 私ね、生まれがね、昭和 11 年生まれなんです。この前、70 になったんですよ。おじいちゃんが 70 ぐらいかな。70 になったばかりです。

ですから、私たちのときは、日本の神様、野球の神様と言われる、川上さんって知ってるかな。

知ってる。あっ、すごいね。川上さんが熊本の先輩です。「大きくなったら川上さんみたいになりたいな」と思って野球を始めたのが最初でした。これが小学校の 3 年生です。

で、プロ野球に行けるようになってからというのは、「巨人に採ってくれないかな」と思って頑張ったんだけど、僕らぐらいの力では巨人、採ってくれませんでした。

しかし、カープに「こいよ」って呼んでもらったんですね。カープに入ることができたんだけど、そこでプロ野球の選手として 14 年間、現役でやりました。本当にあこがれの選手は川上さんでした。

○田村 ありがとうございます。

○澁澤 田村君、分かりました。

はい、その次の方、下條さんへの質問がございます。大鳥小学校 6 年生の森タクヤ君、大きな声で立ち上がって。はい。

下條さんへの質問をおっしゃってください。

○森 小さいころサッカーをやって楽しいことはありますか。サッカーをやって楽しかったことは何ですか。

○下條 まあ、サッカーに限らないと思いますけど、やはり練習をやって上手になることが楽しかったですね。まあ、僕なんかは翌日の練習が待ち遠しかったほうだったんで、そういう意味ではすごく良かったのかと思います。

まあ、今、古葉さんもあこがれの選手というのありましたけど、僕の場合はですね、知ってると思いますけど、ペレ選手。あまり日本ではテレビでやってなかったんですけども、今考えればですね、高校 1 年生のときに全国大会の予選がある週だったんですけど、先生にこっそり内緒で仲間とですね、東京の国立競技場まで夜行電車に来て、ペレ選手の試合を見て、その日のうちに帰ったという、そんなことをちょっと思い出しましたが、何しろもうサッカーのとりこで、練習したらうまくなる。もうそれだけだったですね。

○森 ありがとうございます。

○澁澤 はい、ありがとうございます。

最後は市長さんへの質問です。南吉田小学校 4 年生、石井マサシ君、いますか。もっと大きな声で、はい。

○石井 子供のころどんなスポーツをしていましたか。

○市長 はい、私は子供のころは、同じようにユニフォーム着て。ああ、僕もね、青葉台レッドソックスというところでね、同じようなユニフォームだったよ。赤い、レッドソッ

クスって言うんだから。赤いアンダーシャツ着て、赤いストッキングでやってたから、同じようなユニフォームでやっぱり野球やってみましたね。小学校、中学校、野球やって、という感じだったですけど。

今、大人になってからもね、スポーツやって。今はなかなか定期的に時間を取ることが無理なので、そういう意味では時間が空いたら。あるいは、必ず週1回、週末、土曜、日曜。今日も明日も仕事が入ってるんですけど、だけど、どこかの時間で必ず走ります。そうだな、どのくらい走るのかな。7キロくらい走るね、大体。そのくらい、1時間弱くらい、という感じですね、今は。はい。

○澁澤 ありがとうございます。

他にも御意見。会場の大人の方から御意見、御質問を多数いただいているんですが、時間の都合がありますので、残念ながら内容は割愛させていただきます。

本日は。本日頂いた意見用紙は、後ほど中田市長にお渡しいたします。ありがとうございました。

いよいよ時間が押し迫ってまいりました。御意見、御質問もかなり多く寄せられておりますが、この辺りで市長さんにフォーラムを総括していただき、最後の扉を閉じたいと思います。市長さん、よろしくお願いします。

○市長 はい。先ほどから投影されている御意見をずっと眺めてメモを取ったりしましたが、今、御紹介もいただいたとおり、後ほどまた全部コピーも持って帰りたいと思っております。

そういう意味では、シティーフォーラム、今日はスポーツということで、本当に古葉さんや下條さんにも来ていただいたので、本当にそういう面であきない時間でありましたけれども、それ以外の意見もいただきましてありがとうございました。

横浜が抱えている今の問題、市民の皆さんの御不満というのは、やはり横浜が発展をする中で出てきたものがほとんどであります。例えば、駅前に自転車が多いとか、ゴミが散らかるとかいうのも、都市化が進んできた中で人々が自分たち自身のこと、あるいはある意味では、自分以外のことに無関心になってしまった結果ということも言えるかもしれません。

いわゆるそういう意味では、都市化というのがいろんな意味で、横浜の中で課題を生んでると思いますけれども、しかし、一方でそれを私たちはやはり解決をしていかなければいけない。すぐに今日明日でパッと解決できる魔法の杖があればいいですけども、それも簡単ではない。そういう意味では順次やっていかなければいけないということで、スポーツのことについては先ほども申し上げたとおりであります。

いずれにしても、地域の中でどうやって解決をするのかということについて、これだけ広い横浜ですから、それを一律に解決することはもう無理なんですね。そこを是非、御理解いただいて、それぞれの地域の皆さんと各区役所。そして、区役所の中においてもそれぞれの地域性をよく踏まえて、地域の皆さんと解決をしていくという、冒頭、私がまとま

った時間お話しをしたところを基本にして解決を図っていきたいというふうに思っておりますので、是非、市民の皆さんの引き続きのですね、市政参加をお願いしたいと思います。

ここにいらっしゃる皆さんはですね、ある意味では地域のことに関心を持っていただいている、また、こういう会に出てきてくださる方なんですね。問題は、そうじゃない方がたくさんいらっしゃるという、そのことも実態であります。

ですから、私たち市役所としては、そうした市民の皆さんがなるべく多く参加をしていただけるような仕組みづくりをしたり、あるいは、広報を通じてなるべく多くの人たちが参加をしてもらえるようにしたり、ということも、特に力を入れてやっていこうと思いますので、今後ともよろしくをお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○澁澤 御丁寧な総括をいただき、ありがとうございました。

いよいよもう最後でございます。進行役としてのちょっと、まとめの意見を述べさせていただきます。

まあ、プロ野球で日本一に輝いたことのある古葉さんのスポーツを思い、子供たちを気遣う温かいお心、そして永らく、横浜マリノスを通じてサッカーの普及・振興に努め、今なお責任ある立場で陣頭指揮される、下條さんのサッカーにかける情熱に改めて感謝し、お礼申し上げます。

更にまた、市政の一隅に立ち、スポーツを通じて地域との交流を推進してこられた横山先生はじめ、事例発表をいただいた5人の方々に心からの敬意を表したいと思います。

終わりになりましたが、スポーツは非暴力のモデルであります。さわやかな文化財であります。横浜市がますますさわやかに発展することを期待いたしまして、楽しく会話できた横浜シティーフォーラムを閉じさせていただきます。長時間にわたり、御清聴誠にありがとうございました。

○司会 どうもありがとうございました。大変お話が盛り上がり、またたく間に時間が経過してしまいました。皆様、どうもありがとうございました。会場の皆様、もう一度大きな拍手をお願いいたします。

本日はお忙しい中、長時間にわたり御清聴くださいまして、誠にありがとうございました。会場の皆様からいただいた御意見につきましては、会場の入り口付近に掲示させていただきます。お帰りの際に御覧ください。

なお、お帰りの際には、お手持ちのサインペンを係員に御返却いただくようよろしくお願いいたします。お忘れ物のないようよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして、平成18年度前期東部方面横浜シティーフォーラムを終了させていただきます。抽選のプレゼントについてはロビーで引換えを行いますので、お帰りの際にお引き換えください。

本日はありがとうございました。お気をつけてお帰りください。